

笑顔いっぱい

冬号
(第50号)

発行日/平成29年1月1日

発行・編集

福島生協病院広報委員会
広島市西区福島町1丁目24番7号
TEL082-292-3171(代)

ホームページアドレス

<http://www.hch.coop/fukushima/>

福島生協病院 副院長 北口 浩



新年明けましておめでとうございます。

昨年10月に副院長を拝命しました北口です。

福島生協病院は、10年の準備期間を経て2014年に新病院建設に着工、1年3ヶ月の工期を経て2015年9月に開院しました。新病院開院から早いもので1年が経過し、新病院開院に伴う色々な課題も一つずつ乗り越えております。

当院は地域で開業されている医師会の先生方や地域の病床を担っておられる勤務医の先生方、あるいは介護事業所の皆様方と協力して、地域で最期まで安心して暮らしたいという、地域の方々の願いに応えてまいりたいと決意しています。西区在宅あんしんネットの在宅を後方支援する病院として医療介護相談窓口の機能を果たさせていただいております。

今年もよろしく願いいたします。

福島生協病院 副院長 大津 直也



皆さん、新年あけましておめでとうございます。おかげさまで私たちの病院も新病院となって二度目のお正月を迎えることができました。新病院建設時に、急性期治療から家庭復帰への橋渡しの役割を担う病棟として、回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟を立ち上げましたが、現在、私は石橋前副院長の後任として回復期リハビリテーション病棟の病棟医長を努めています。看護師、理学・作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーと連日カンファレンスをし、患者様の希望をお聞きしながら治療を進めており、多くの患者様が元気に家庭生活に戻っておられます。これからも信頼される病院となるようにスタッフ一同努力をしていくつもりです。文末になりましたが、今年が皆さんにとって健やかで実り多い一年となりますようにお祈りいたします。

●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

基本方針

1. インフォームド・コンセント(説明と意思決定)を重視し、信頼される医療を提供します。
2. 教育・研修活動をすすめ、医療、看護、接遇の向上につとめます。
3. 地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

新任医師紹介

高松 倫也（福島生協病院 眼科科長）



はじめまして。2016年10月1日から眼科に勤務している高松倫也です。

昭和63年に広島大学を卒業してそれ以後、広島大学病院を皮切りに呉の木村眼科内科病院、済生会呉病院や山口県は熊野郡の光輝病院、柳井市の周東総合病院、府中町のマツダ病院などの勤務を経て、しばらく広島大学病院に勤務していました。途中で周南市の広田眼科にも勤務しました。ここ数年は非常勤で三次市のみつぎ総合病院や岩国市の錦中央病院、今は眼科がありませんが広島三菱病院などに勤務していました。

このたび縁あって、福島生協病院で拾っていただきました。ブランクがあってご迷惑をかけることもあると思いますが、長い眼で見てやってくださると助かります。

よろしくお願いたします。

『1年ぶりに復活！！健康食試食会』 ・ ・ 外来糖尿病グループ ・ 栄養科

新病院移設をきっかけに中断していた健康食試食会でしたが、2016年9月14日、2階虹の部屋でようやく再開することが出来ました！「体験型学習」として、より分かりやすい食事の提案を、旧病院・生協内科クリニック時代より、継続しております。



試食会参加の 対象病名は、主に生活習慣病『糖尿病・高血圧・心臓病・脂質異常症・脂肪肝・糖尿病性腎症など』です。対象患者様の状況に応じて、必要エネルギー・塩分・たんぱく質・糖質・脂質管理を行った食事の提供を致します。基本的な分量・食材の組み合わせを目で確かめて、味付け・満腹度を食べて感じて頂き、今日からの食生活に生かして頂くことが目的です。



<教室風景>

食事時間は、30分以上に設定し、調理師から調理法の説明、管理栄養士からの献立の説明、食材の豆知識などを聞きながらゆっくりと食事を楽しんで頂きます。また患者様同士が料理の技や実践報告などの情報を交換して知識を深められるのもこの会の大きな収穫です。

試食会は当院通院中の患者様を対象に毎月第二水曜日に開催しております。

6階病棟リハビリ運動会

10月20日（木曜日）、27名の患者様と、約50名のご家族、リハビリスタッフ、病棟スタッフ、実習生の参加で、第一回6階病棟リハビリ運動会を開催しました。

患者様お二人での選手宣誓でスタート。

実習生による体操、種目は玉入れと風船運びでした。

患者様それぞれの能力に差があるため、競い合いが難しいのではと心配し



ていましたが、リハビリスタッフの協力もあり、日頃見せられない真剣な眼差し、夢中に玉を投げる姿、たくさんの笑顔を見ることができました。

病室から出る事をいやがっておられた患者様に、「参加してとっても楽しかった。準備とか大変だったでしょう。ありがとう。」と言っていた、スタッフも嬉しく思いました。



この運動会の経験を、今後のリハビリテーションに活かしていきたいを思います。

編集後記

2016年の広島市の街は、カーブ一色でしたね。11月に行われたパレードは、病院のすぐ近くからスタートだったので、病院の前をとでもたくさんの人が横切っていかれ、あらためてカーブ人気のすごさを実感しました。今年こそ日本一を勝ち取ってほしいものですね。

この「笑顔いっぱい」は今号で第50号となりました。これからも、編集委員みんなで力を合わせて、こつこつと続けていきたいと思っております。よろしくお願いたします。(E)